

高校教師の心得

第7回 特別活動・部活動



監修
服部 次郎

(はっとり・じろう) 東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭、同校長、筑波大学教授などを経て、2006年4月から現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

高校時代の楽しい思い出といえば、体育祭・文化祭や修学旅行などの学校行事に参加したことや、球技大会や合唱コンクールなどの生徒会行事に参加したことなどが挙げられるでしょう。このような行事に楽しく参加するためには、ホームルームの仲間たちとの健全な集団生活が不可欠ですね。このように、望ましい集団活動を通して生徒たちが集団や社会の一員としての在り方を学んでいく教育を「特別活動」といい、高等学校学習指導要領の第5章に、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の3つが掲げられています。

生徒会活動の指導

ホームルーム指導については、本連載の第5回で取り上げましたので、ここでは生徒会活動の指導について述べます。

生徒会活動の指導について、学習指導要領では「教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにすること」とされていますが、ここが難しいところです。例えば、「生徒会機関誌」を発行する際、この編集・発行に教師がどうかかわるかは重要

です。編集委員である生徒たちがすべてを企画・編集して、個性的で文化的な機関誌が発行されることが理想ですが、その作業の過程では、生徒会顧問（生徒会活動を指導する教師。生徒指導部の一係）は定期的に編集委員長に経過を報告させたり、時々編集会議に参加したりして、機関誌の内容を掌握していなければなりません。これには、自治意識の高い生徒ほど「生徒会機関誌の内容を教師が検閲するのは、言論の自由の侵害である」などと抗議しますが、「そうではない。生徒会機関誌といえども本校の教育活動の一環で、その内容については校長が責任を負っているのだ」と説得できなければなりません。もしも放任していて、いじめや個人攻撃の記事、不道德・反社会的な内容、差別的な言葉などが載った機関誌が発行されてしまったら、「生徒の自治活動」では許されず、学校教育の重大な過誤として校長および教師の責任が問われることになるのです。

つまり、生徒会活動の指導では、教師が細かく口出しすると「生徒の自発的、自治的な活動」は展開しないけれども、「教師の適切な指導」を放棄して放任すると、重大な過誤を生じかねません。生徒に自発的に活動させながら、教師は後ろから常に指導の目を光らせている。それが「教師の適切な指導」ということです。

部活動の指導

部活動について、学習指導要領では「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」とされていますが、その後で「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意する」となっていて、部活動もまた学校教育の一環であることが明確に示されています。生徒にとって、部活動は高校生活を充実させるために大きな位置を占めるものであり、部活動の指導は教師の仕事の重要な部分であるといえます。

「部活動の指導者になりたい」は 教員の志望動機になるか？

教員への志望動機を問われて、「私は生徒のときに部活動に熱心に取り組んできたので、教

師になって部活動の指導者になりたいです」と答える人は多いものです。その気持ちは分かりますが、私立学校の部活動指導の専任コーチに採用される場合などを除いては、部活動指導は教師の中心的な仕事ではないことを覚えておかなければなりません。

教師の仕事は、まず授業、次にホームルーム指導をはじめとする生徒指導や道德教育の指導であり、そして学校の業務分掌である校務分掌です。それらの仕事をこなした上での、部活動指導なのです。確かに学校現場では、部活動指導が仕事の中心であるかのような教師も存在しないわけではありません。たまに勘違いして、「部活動指導が忙しい」ことを理由に授業は自習が多く、ホームルームは生徒任せ、校務分掌の会議には出てこないという教師もいますが、そういう教師は同僚から冷たい目で見られます。やるべき仕事をやってから部活動に取り組む、というのが教師としての正しい考え方です。

「部活動指導にだけ熱心」では評価されない

部活動指導にだけ熱心で、ほかの仕事に手を抜く教師がなぜ評価されないのでしょうか。それは、部活動指導はほかの指導に比べて容易で、しかも楽しいからです。

部活動は、同好の士の集まりです。例えば、野球部員は皆、野球が好きで、野球が上手で、甲子園に行きたいと思っています。つまり、生徒の興味・関心・態度や能力の質は高く、集団としての目標は1つです。こういう集団を指導するのは比較的楽なことです。

しかし、授業やホームルーム指導はこうはい



きません。生徒の興味・関心・態度や能力は一樣ではなく、集団の目標も1つではくくれません。部活動ではほとんどあり得ないでしょうが、授業やホームルーム指導では教師に反抗する生徒もいます。教師は、さまざまな個性を持った多様な生徒たちと向き合って、一人ひとりの声に耳を傾けながら、それぞれの生徒の成長へとつながる指導を行わなければならないのです。誠実な教師は、この困難な仕事に日々取り組んでいます。ですから、授業やホームルーム指導や校務分掌をいい加減にして、部活動指導にだけ熱心な教師が評価されるはずはありません。

教師としてやるべき仕事をやった上で、部活動指導をするのは大いに結構なことです。部活動指導は、教師生活に潤いや張りをもたらす楽しい仕事になるはずです。私自身も、長い高校教師時代を振り返ると、部活動指導での良い思い出がたくさんあります。

ですから、教員採用試験の志望動機では、「授業やホームルーム指導にしっかり取り組んだ上で、機会があれば自分の得意な部活動を指導できたらと思います」と言うのが適当でしょう。

Point!

高校教師の「生徒会活動」

- 生徒の自発的、自主的な活動を尊重しつつ、教師は常に適切な指導を忘れない

高校教師の「部活動」

- 部活動指導は教員の志望動機になるか？

→まずは授業・ホームルーム指導・校務分掌にしっかり取り組んだ上で、と心得よう

☆次回は進路指導を取り上げます。